

## 当事者の思い・課題の解決に向けて

### ライフヒストリー

だいぶ暑くなってきましたので、上着を脱がせてください。暑いと眠くならないですか。大丈夫でしょうか。

一番大きなところ、ライフヒストリーで、多くのセクシャル・マイノリティが、本当に同じような、似たような道筋をたどっています。一つ大きな壁は、自分へのカミングアウトです。社会の中でセクシャル・マイノリティというのは、社会の中で差別や偏見の対象となっている、つまり変な人達だというレッテルが貼られているわけですから、自分が女性に惹かれていると思ったときに、なかなかそれを認められなかったのですね。その感情を認めたら、自分の人生には大変なことがおこるのではないかと思いました。つまり、本当に自分がどこかにいってしまうのではないかと、家族や友達に見捨てられるのではないだろうか、という恐れを抱いていました。もちろん教育の中で、世の中には同性愛者という人が数パーセントいるんだよということは、誰からも教わっていません。そして、その人達が、ありのままの自分でいていいのだよ、ということも、恐れなくてもいいのだよという言葉も私は受けたことがありませんでした。ですので、自分が女性に惹かれていると感じたときに、とにかくこれを隠さなければいけない、そしてこれを認めてはいけない、これを認めたら私は人生には大変なことが起こるのではないかと、今から思ったら「そんなこと」って思うかもしれませんが、でも本当にそう思ったのです。正しい情報がどこにもありませんでした。

結局、私自身、5年かかりました。自分が女性好きであると言うことを、自分の中で認めるまでに、5年もかかったのですね。本当にその5年というのは、いろいろ辛いこともありました。自分が変なのではないかと思っている訳ですね。でも誰にも相談できませんでした。今だったら、インターネットとかあるのですが、私の時代にはありませんでした。高校時代には携帯電話もありません。大学になってポケットベルが流行りだした、そういう世代ですので、インターネットというのは、なかったのですね。ですから、今だったらインターネットでつながれたかもしれませんが、そういう中でなかなか持てないのは、自分はなぜ女性に惹かれるかも分からない、誰に相談したらいいかも分からない、自分は世の中で一人なのではないか、自分は変なのではないか、自分は生きていても仕方ないのではないかと、自分の心は絶対に人に見られてはいけない、すごく心を閉じていました。そして、誰も信用していなかったのですね。そういう時代が5年間ありまして、そしてサークルの先輩にふられて、そこから自分のことを認めよう、女性のことが好きであることを認めよう、と思ったわけです。また、今私がこうしてカミングアウトをしているのは、今でも悩んでいる子が沢山いると思うのです。正しい情報がないまま、自己否定、そして孤独に陥っている人が沢山いると思うのですね。この子達に、私たちがちゃんとメッセージを伝えてあげたい。

「ありのままのあなたでいていいんだ」

ということ。それは、やっぱり私が5年間悩んだ時に、欲しかった言葉です。そして「恐れなくていいんだ」

それを今私たちが伝えたい。それを伝えたくて私はカミングアウトをしました。

そして政治の世界に入っていきわけですけれども、政治の世界に入ったのも、私はやはり同性愛者であったからです。自分が同性愛者でなければ、きっと政治の世界には入っていなかったと思います。それは、私が同性愛者と感じて、同性愛者のコミュニティと呼ばれる友達たちと会って思ったことは、なぜ社会はこれだけ私たちのことを差別や偏見の目で見るところだろうか。なぜ、さきほど私がしゃべり続けたような正しい知識というものが、日本の教育の中では何一つ伝えられないのだろうか、なぜ私たちは隠れていなければいけないのだろうか。これは私たちの問題ではなく、同性愛者やセクシャル・マイノリティに対しての正しい知識を持っていない社会の問題なのではないだろうか。みなさん、大学に入られるときには、国際基督教大学では世界人権宣言に署名をするらしいですね。

「人は生まれながらにして、尊厳において平等である」、「尊厳において平等である」

と言われながら、じゃあ、どうして私たちは、平等ではないのか、その人権の中に人の中にどうして私たちは入ってこないのか。私はそれを変えたいと思いました。同じように悩んできた人たちと同じ人生を歩ませないために、私ができることがあるのではないかと、そして政治の世界に入ったのです。ですから、私は議員というものは違うなと思っています。この社会を変えるツールであって、議員になることが目的ではない、と思っています。

そして議員になって、2年目、ちょうど真ん中のところでカミングアウトをしました。

(配布資料7枚目の写真)これは、東京レズビアンアンドゲイパレードに参加したときの様子です。この、東京レズビアン&ゲイパレードは、この講演の主催をしてくださっているシンポジオンのメンバーも来てくれました。沿道の人合わせて、3500人集まっています。日本で、3500人というと、「なかなか、結構集まっているなあ」と言われるかもしれませんが、海外では皆さんご存知のとおり、大体ゲイパレードやプライドパレードと呼ばれるものには、数十万人規模で集まりますから、日本でもこれから大きくしていきたいですし、皆さんも8月、もし東京にいましたら、このパレード、一緒に参加して欲しいなと思います。

### 日本の法律上の取り扱い

では、法律は今日本ではどうなっているのかということについてですけれども、日本では性的指向、性自認による差別等を禁止する法律はどこにもありません。あるのは、法務省人権擁護局が人権週間の中で強調事項として、性的指向による差別をなくそう、性同一性障害を理由とする差別をなくそう、と書いてあるだけです。もちろん明記をしていることは、評価しますけれども、具体的なことが全然ないということがあります。ですから、これから具体的に何をどうするという、差別をなくそうと言っているだけで差別がなくなるのか、ということは今交渉しているのですけれども、こういうことでもって具体的に何ができるのか、どういうことをやったら差別や偏見がなくなっていくのかというこ

とをもっと真面目に考えて欲しいということを、言っています。

真ん中は、パートナーシップ制ということで触れています。日本で、同性間のパートナーシップ制というのはありません。結婚というものも一応、「両性の合意」によるものとされていて、憲法 24 条の解釈上、同性同士の結婚はできないと解釈する人が、民法の学者には多い。なぜか、これは色々な諸説がありますが、今のところ、こう解釈している人が多いということで、書いておきました。もう少し詳しく話すというところとあるのですが、本題からずれると言うことで、申し訳ありませんが、ちょっとこれくらいにしておきたいと思います。

#### こころの中の問題

そして、心の中の問題。みなさん、ホモフォビアという言葉をご存知でしょうか。同性愛嫌悪、同性愛恐怖症、またはセクシャル・マイノリティに対しての嫌悪のことを言います。手を挙げていただいた皆さんは、皆さんのまわりに同性愛やセクシャル・マイノリティの人がいるということでしたが、多くの講演会で話すと、会ったこともないのに

「気持ち悪い」・「理解できない」・「違和感がある」

とか言う人がいるのですね。私もカミングアウトしてから言われました。面と向かって、色々な人の前で

「あなたがそんなことする意味が分からない」

とか、

「僕には理解できない」

とか言われたんですね。なぜそのように悪いイメージがあるのかということについては、きっちり皆さんに伝えておきたいと思います。

まず一つはマスコミで作られているホモフォビアです。それを社会の価値観として、流通させてしまっ、私たちも社会の価値観として内面化している部分があります。例えば、ブロークバック・マウンテンという映画が今年ありましたね。アカデミー賞の監督賞を取りました。あのとき、アカデミー賞を取るまでなんて言われたか。それは

「男同士の禁断の愛を描いた問題作がアカデミー賞をめぐる物議をかもしている」

この言われ方はどうでしょうか。また、先日アンテナ 22 という日本テレビの番組がありました。夜の 10 時からやっている月曜日の番組ですが、そこでのタイトルが「新宿 2 丁目 禁断の同性愛の楽園」、新宿 2 丁目というのは、同性愛者向けのバーなどが沢山ある場所なのですが、そういう文章がテレビ欄に載りました。同性愛の前に「禁断」と付けること、禁断ってどういう意味かということ、御法度とかいう意味ですよね。同性愛の場合は、なぜ「禁断」と言われなければいけないのか。これはどうしても同性愛者・セクシャル・マイノリティというのが、人権侵害にあいやすい人たちだというような意識はどこにもありません。自分達とは違う、変な人たちの生態を描いた番組として描かれています。

例えば、もっとありますね。よくあるのが、週刊誌などで、男子児童にいたずらをした男性の教員

に対して「ホモ教師」、などと書かれます。では逆に、女子児童に対して、いたずらをした男性教師は「異性愛教師」と言われるのか、と。なぜこの時だけ、「ホモ教師」という同性愛ということが前面に出て、色々なところでの性的いたずらに対して、なぜ「異性愛」ということが問われないのか。一番最初に言った、正しい知識、「異性愛」と「同性愛」は健康的な性的指向であるという前提があるならば、こういう言われ方は絶対にしないわけです。このように隠れたところに、矢はあります。皆さんの中にはどうでしょう。もちろん私の中にもホモフォビアがありました。ですから自分が同性愛者だと認めるのに、5年もの時間がかかった。ですから、

「自分でも認められない」「自分は同性愛者なんかではない」「隠そうとする」「同性愛者だと思われたくない」「隠しておきたい」

それが自分の自尊心を傷つけているのです。私は私のままでいい、そう思えなくなっているのです。これが、本当に大きな問題で、これを変えていくために、アクト・アゲinst・ホモフォビアという活動をやっているわけです。

### 宗教の問題

ここで、ひとつ宗教のことをお話してきたいと思います。宗教の中のホモフォビアというのはどうということかということなのですが、皆さんは国際基督教大学に通っておられるということで、キリスト教に関してはきっと私よりも知識がある皆さんだと思います。

まだまだ、例えば、これはカトリックですけれども、バチカンでは教皇が、今はちょっと緩んできたという話がありますが、それでもいまだにコンドームの使用もだめだし、同性愛もだめだと言っています。ポーランドという国がありますが、ポーランドはこの前亡くなった教皇の出身地なのです。ポーランドは教皇を生み出したということで、かなり誇りを持っていて、そこで、プライドパレード、セクシャル・マイノリティのパレードをしようとしたら、警察が妨害しにやってきます。そして警察から暴力を振るわれるという状況になります。

いわゆるイスラム、そして、キリスト教、宗教の中にホモフォビア、セクシャル・マイノリティに対する嫌悪があるのですが、例えば UCC、合同教会、ユナイテッド・チャーチ・オブ・クラストでは、こういうコマーシャルを作っています。3つあるのですけれども、これが最新のものです。同性愛嫌悪に対して、みんなで活動していこうということでこういうものを作っています。これはシングルマザーが(教会の中から、座っていた椅子にはじき)飛ばされていく、ゲイも飛ばされていくというコマーシャルです。

「神はだれも拒否しなかった、だから私たちもしない」

教会の趣旨から外れている人を追い出そうとしているわけですが、私としてはそういうことをしないということで、UCC = ユナイテッド・チャーチ・オブ・クラストがコマーシャルを作りました。しかし、このコマーシャルは残念ながら、3大ネットワークでは放映を拒否されました。理由は宗教のことは、一応コマーシャルでは流さない、ということでしたが、このコマーシャルはそのようなことで流されませんでした。

これは3部作でして、例えばこういうものもあります。これは、用心棒編というものですけれども。(ス

クリーンにて放映:男性の用心棒が教会に入ろうとする人たちを選ぶ。一部の人は中に入れない様子が描かれている)。このCMは、昨年何かのCM大賞のようなものを取ったそうです。3大ネットワークでは先ほどに理由で流されなかったのですが、取ったと。そういうものや、先ほどみたようにゲイ男性を用心棒が追い出すのですけれども、しかし最後には

「キリストは、何人をも拒絶しなかった。だから私たちもそれをしない」

そして

「ユナイテッド・チャーチ・オブ・クライスト、あなたが誰であれ、人生のどこにいても、私たちは、あなたを歓迎します」

ということを述べています。同じように、こういうものも彼らは作りました(スクリーンにて放映:子供が手遊びをしている。「ここが教会、ここが教会の屋根、ドアがあいて、中にはいろんな人がいる」そして、様々な人種・年齢の人々の映像が映し出される)。

ということで、これについてもっと詳しく知りたいと言う方がいたら、先ほどありました、UCC(ユナイテッド・チャーチ・オブ・クライスト)のホームページ、または、<http://www.stillspeaking.com>に行っていたら、映像が見られるようになっていきますので、良かったらまた見てみてください。

という風に、今宗教の中でもLGBTに対する嫌悪や差別がありますが、こういう合同教会のように、差別をなくしていこう、私たちは全ての人を受け入れるのだということもあるということをお伝えしておきたいと思います。

### レズビアンとゲイの格差

日本でも少しずつ変わってきました。例えば、これはこの前、日経流通新聞にのっていたのですが、「LGBTマーケットというのが最近出来た」ということ。流通新聞ですから、商売をしていらっしゃる方が見るわけですから、このように映画やファッション界に実は、LGBTマーケットがあるのだよ、ということ、最近、新聞が取り上げるようになってきています。

しかし、今回、ジェンダー研究センターが主催ということで、押さえておかななくてはいけないことは、レズビアンとゲイの間にはかなりの経済格差があります。と言うのも、日本というのは、まだやはり性別役割分業というのが、社会の中に組み入れられています。ですので、男性が、外にでて仕事をし、一家を養うほどの給料をもらい、女性が家で家事や育児をするという性別役割分業の社会というのがまだ源泉としてある部分があります。それが、同性愛者の中にも影を落としていまして、男性は可処分所得の高い人たちがいます。子供を持たない選択をする人たちが多いため、そういうゲイ男性が2人で住むと、家族を養えるほどの給料をもらえる人たちが2人でのいるわけです。ですので、そこにはかなりの余裕が生まれて、いろいろな所に消費できる人たちが存在する。では、女性はどうかという、今、女性の平均賃金は男性の7割ありません。6割強です。

そして、今、確か非正規雇用、すなわち派遣とかそういった人たちが、女性の雇用者の半分を超えました。ということは、女性が一人前に働いて、給料をもらえ、一生働いていけるような職場というのは、女性にとってすごく少ないのです。ですから、女性2人でくらしているとはいえ、レズビアン

には、女性の貧困がレズビアン（L）の貧困となる場合があります。もしくは結婚していた女性が、離婚すると経済的困窮度はますます高くなって、大阪ではシングルマザーの平均年収は 160 万ですよ。慰謝料を入れて 210 万、そういう状態です。ですから、レズビアンの中には生活するので精一杯、実はゲイ男性のように、可処分所得が沢山ある人もいますが、どちらかといえばレズビアンの場合まだまだ女性が一人で一人前の給料をもらって暮らすということが、日本の社会が課題でありますから、この分で難しい人たちがいます。このように男女の格差があるのだということを、皆さんにお聞かせしておきたいと思います。

### 子どもたちの抱える問題

子供達の抱える問題の中からですが、この問題はかなり深刻です。「ホモ・おかま」といった言葉によるいじめ被害についての調査では、6 割の人が、「ホモ」「おかま」といった言葉によるいじめを 10 代のころに受けています。自殺を考えたことがあるのは、64%、非常に高い数字です。自殺未遂の経験がある 15%、これもすごく高い。とにかく、カミングアウトしている大人が少ないところから、ロールモデルがないところからの生きにくさというのがあります。これから日本の社会はこれを解決していかななくてはならないのですね。子供というのは、いろんなキーワードになっています。子供をいろいろな犯罪から守っていかなくはいけない、しかし、この子供達、特に LGBT の子供たちが学校現場で抱えている生きにくさというのは、まだ誰も取り組みが出来てない、特に、行政や政治の中でできていませんので、これに関しては、私もまだ議会に在る間は一生懸命やりたいと思っています。

学校の中の孤独というのは、表で言うところの感じなんですね(配布資料9ページの表参照)。20 歳になって初めて当事者と出会うのです。「ゲイであるということは何となく自覚した」のは、13 歳です。「ゲイ男性に初めて出会った」のは、20 歳です。この 7 年間、中学、高校、大学の中で孤独、自分否定を感じている子が、これだけ多いという事実は、私はすごく重いと思っています。

もちろんこんな教科書もあります。これは、「こころのノート」と呼ばれているもので、今、小・中に文部科学省の副読本として配布をされています。これは河合隼雄先生が監修して下さっているのですが、「好きな異性がいるのは自然」。では、好きな同性がいるというのは、不自然なのか。こういう、LGBT の子供たちがクラスにいるんだということを全く配慮されていません。こういうのが今の日本の教育の現状ではないでしょうか。

### もしもの時の不安

もちろん、大人になってからもいろいろな不安があります。ここにざっと色々な不安を並べておきました。典型的なエピソードだけ一つお伝えしておきます。この前のレインボートークという、同性間のパートナーシップの保障を考える会で話して下さった、ある男性の話です。その男性の彼は自営業をしていました。そして自営業の彼の仕事を手伝いながら彼名義のマンションに住んでいました。ある日、その彼が車の運転中に意識を失うということがあり、救急車で運ばれました。救急隊の

一番最初に電話がかかってきた人、携帯電話の履歴で一番最後に残っていた人に電話しました。今、身元不明の人が運ばれてきましたが、あなたはご家族でしょうか。その彼は

「いえ、家族ではありません」

と答えました。そうするとどうなったかと言うと

「ご家族の方を紹介してください」

と言われました。

「容体はどのようなのですか」

と聞いても、ご家族の方でないと教えることができません。と言われるのですね。彼は、相手のお母さんに連絡をつけて、お母さんに連絡をしてくれと伝えて、それでその後、容体と病院を聞いて、病院にかけつけましたが、彼は病院で既になくなってしまっていた。次にくるのはお葬式です。お葬式では彼は一体どの席にいることができるのか。彼は従業員としてお葬式に参加することになりました。そして、次に相続の問題がやってきます。彼の名義のマンションは、彼が亡くなったと同時に、相続で彼のお母さんのものになります。そして言われたのは、出ていってこないかということ。つまり2人でつくった財産なども彼はもらうことができません。もちろん生命保険ももらうことが出来ません。彼はパートナーを失うことによって、仕事を失い、住む家を失い、財産を失いました。ということは、万が一の時に起こるのですね。普段、元気で暮らしているときはこのような事はおこりません。万が一の時に何の権利保障もない。仕事をし、税金を払っているのに、公的なサービスが何も受けられない状況があるという状況について、今、やっと当事者で話を始めました。しかし、世界ではいろいろとありまして、同性パートナーの法的保障。これくらいの国、ヨーロッパを中心に認められてきています。逆に同性愛が罪になる国もあります。今、同性愛の性行動が非合法とされている国は81カ国あります。死刑もあります。死刑になる国は10カ国あります。その写真は昨年、イラクの10代の少年が同性愛の罪で公開の絞首刑にあった時の写真です。このように、世界では10代であろうとも、同性愛であるという理由で、死刑になることがあります。しかも公開でこのような形で、命を奪われてしまうことがあります。

日本も無関係ではありません。イラン人のゲイの難民の人が、難民申請をしたけれども、それに対して

「あなたは同性愛行為をしなれば、こういうことにはならないのだから、国に帰っても大丈夫だ」

という結論をだしました。結局彼は第三国に出国しましたけれども、日本も実はこのようなことに関わっています。

### 少数者の人権をどう守るか

時間もだいぶ迫ってまいりましたが、質疑応答の前に、皆さんにお伝えしておきたいことは、少数者の人権をどう守るかということです。ページでいうと30ページ(配布資料16ページ)になります。

30ページの真ん中のところの、「無関心の問題」。みなさんも是非こだけ気を付けてください。キング牧師はこのようなことを言いました。

「この社会の変動期における世界最大の悲劇は、悪人たちの暴言や暴力ではなく、善意の人の不気味な沈黙と無関心であった、と歴史に記録されるべきだろう」

マザーテレサもこう言っています。

「愛の反対は憎しみではなく無関心だ」

つまり、今、同性愛者・セクシャル・マイノリティの人たちというのは、無関心やいろいろな差別や偏見があるからなかなか声をあげて姿をみえることが出来にくい社会であります。声が出てこないからといって、そのような人たちがいないという訳ではありません。是非皆さんは耳を傾けていただきたい。そして、無関心であるということは、そういう社会にYesをいっているということなのだ、このようなセクシャル・マイノリティや同性愛者が差別や偏見にあっている社会、それにイエスと言ってしまっているということを是非思っていて、一緒に社会に蔓延する同性愛嫌悪、セクシャル・マイノリティに対する、差別や偏見について一緒に考えていただきたい。そしてこれを一緒になくしていただきたい、と思います。

最後に、今日こうやって皆さんにお話しをさせていただきました。また、クラスとかアルバイト先、職場の中、ご家族の中でこのような話をしてみてください。面白いのですが、こういうことをしゃべるようになると、まわりにカミングアウトしている友達が増えるということがありまして、私のまわりにも最近どうも、セクシャル・マイノリティの友達が増えてきた、それは増えてきたのではなく、その場に見える人が多くなってただけなのですけれども、ということを知ることができています。ぜひ、この問題、皆さんも一緒に興味を持ってみんなが自分らしく生きられる社会、虹色の社会、多様性を認めあう、違いを豊かさに変えられる社会をつくってほしいなと思います。

質疑応答の前に、レインボーバンドの紹介をさせていただきます。今、私が付けているレインボーバンド、6色の虹で作りました。そしてPRIDE、誇りという言葉が入っています。これは、Act Against Homophobiaの一環でみんなで、バンドをつけようということでやっているのですけれども、これは、ホモフォビアをなくしてこう、多様性を認めあえる社会をつくってこうということで、それに賛同してくださる皆さんに買ってもらって、その収益金はすべて東京レズビアン&ゲイパレードと、札幌レインボーマーチの方に寄付をさせてもらうということで、今、ファンレージングを兼ねて、このようなキャンペーンをやっています。

ちょっと駆け足になりましたけれども、以上で私の話を終わらせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。